

《参考資料 その1》 東北復興支援活動の具体例について

1. 宮城県名取市 仙台空港周辺での取り組み

公益財団法人 OISCA の「海岸林再生プロジェクト 10 カ年計画」を 2011 年から支援し、宮城県名取市の海岸林で、これまでに 5 回のボランティア活動を実施しました。津波で流され潮風にさらされた硬い砂地に「防災林」を生まれ変わらせるため、地域の皆さんにクロマツなどの育苗を担っていただき、社員ボランティアが苗の成長を支援しています。このプロジェクトは、2020 年まで育苗・植栽を、2033 年まで育林を続け、“名取市民の森”を作っていきます。

2. 宮城県南三陸町での取り組み

2011 年東日本大震災が発生した翌月から 63 日間、航空機用の除雪車を使用してお湯を沸かし、のべ 2,237 名の被災者の方にお風呂を提供しました(『ANA こころの湯』)。その後、南三陸町の 10 ヘクタール(東京ドーム 2 個分)の森を『ANA こころの森』として借り受け、年に 2 回の社員ボランティアによる森の整備活動を行い、森から出る間伐材を活用してノベルティグッズやおもちゃやなどを現地で作成していただいています。今後も森林保全活動、および南三陸の雇用創出を支援していきます。

3. 福島空港周辺での取り組み

これまでに 5 回、毎年活動をしている『花を咲かそうプロジェクト』は、東日本大震災以降、福島空港から福島を元気にしたいという思いから、ANA グループの社員ボランティアと須賀川市、玉川村のボランティアの方、空港関係者など毎回のべ 120 名ほどが集まり、春に福島空港滑走路横の斜面にひまわりの苗の植栽と種蒔きを行い、夏に力強いひまわりを咲かせています。

4. ANAグループ社員を対象に『東北震災復興スタディーツアー』を開催

被災地に対する関心の薄れが懸念される中、被災地の真の姿を自らの目で確かめた上で、様々な形での東北復興支援策を考え行動に移していくことを目的として、2015 年度は 3 月実施予定を含め 3 回実施し、のべ 80 名の社員が福島を訪れ、「福島県の津波・原発被害の実態と課題、復興に向けた取り組み状況」を学びました。今後も継続してスタディーツアーを実施し、真の姿を知ることを通じて、復興を加速させるため次に何をすべきかを考え、それぞれの立場で出来ることから取り組んでいきます。

5. 福島県庁への ANA グループ社員の派遣

復興庁と連携し日本財団「WORK FOR 東北」を活用して、2015 年 4 月 1 日より ANA グループ社員(ANA 総合研究所の研究員)を福島県 商工労働部 観光交流局 観光交流課に国際観光推進員として派遣し、福島県の外国人観光客の誘客に関する業務に取り組んでいます。

6. “日本最大級の都市型マルシェ”である『太陽のマルシェ』に出店

2015 年度からの新しい取り組みとして、東京都中央区勝どきで開催された『太陽のマルシェ』に“福島県 & ANA”として出店しました。都内の福島県アンテナショップ「日本橋ふくしま館 MIDETTE」の特産品販売を、3 回のべ 42 名の社員ボランティアが制服を着用してサポート。今後も定期的実施していきます。

7. 『ANA航空教室』の開催

国内外で“次世代育成”を支援する活動を東北でも毎年行っています。2013 年度の福島の航空教室キャラバンでは合計 29 の小中学校を訪問しました。「ANA 航空教室」とは、運航乗務員(パイロット)や客室乗務員(キャビンアテンダント)など、ANA グループの仕事を紹介し体感してもらうことで、子供たちに「夢を持つこと」そして「夢に向かって、努力し続けることの大切さ」などを伝える活動です。子供たちが自ら未来を切り拓く力をつけ、挑戦することを今後も継続して応援していきます。